Vol.24
2024年6月

SOMPO環境財団 ニュース

SOMPO ENVIRONMENT FOUNDATION

発行者／公益財団法人SOMPO環境財団　〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1　TEL：03-3349-4614　FAX：03-3348-8140
URL：https://www.sompo-ef.org/　BLOG：http://sjnkef.edoblog.net/　E-mail：office@sompo-ef.org

1 NGO Learning Internship Programの第6期がスタートしました！

SOMPO環境財団がインドネシアで実施している海外版CSOラーニング制度、「NGO Learning Internship Program」の第6期キックオフ・セレモニーを、2月27日にジャカルタのSompo Insurance Indonesia（SII）で開催しました。

NGO Learning Internship Programはインドネシアのジャカルタ・ボゴール近郊の大学生・大学院生を対象に2019年からSOMPO環境財団と日本環境教育フォーラム（JEEF）インドネシア事務所が共同で実施しているインターンシップ事業です。これまでに5期100名超の学生が参加し、多くの修了生が環境NGOや省庁の職員・研究者として、同国の環境分野で活躍しています。

式典にはインターンに参加する学生のほか、受入先NGOの代表者も参加し、学生たちの決意表明を温かく見守りました。また、来賓としてインドネシア環境林業省のJo局長、SIIの黒木副社長にも参加いただき、「この中からカルパタル賞（インドネシア政府が環境問題解決に貢献した個人・団体を表彰する賞）の受賞者が出ることを願っている」と、将来を担う若者たちの活躍に期待するメッセージが寄せられました。日本からは環境財団の西脇専務理事、担当の瀬川も駆けつけ、学生たちを激励しました。

今年度は200名以上の学生から選考された25名が、11の環境NGOで活動を行います。年々参加学生の所属する大学数も増加しており、今年度は10大学（昨年度は4大学）の学生が参加しています。また、受入団体としてはSAWIT WATCHとKIARA Foundationの2団体を新たに迎えました。SAWIT WATCHは修了生の就職先、KIARA Foundationは修了生の研究に助成いただいたというご縁で参加いただくことになりましたが、修了生の活躍によりNGOの輪が広がるという好循環を感じる出来事で、事務局として大変嬉しく思っています。

インドネシアのラーニング生は2月から9月までの8か月間インターン活動を行い、9月には日本のラーニング生との交流会も予定しています。日イ双方のラーニング生が充実した学びと交流の機会を得られるよう、事務局として全力でサポートして参ります。

※SAWIT WATCH：パームヤシの問題を切り口に持続可能な開発に向けたアドボカシー活動を行うNGO。
※KIARA Foundation：絶滅危惧種であるジャワギボン（テナガザル）の保全活動、生息地域の住民への啓発・教育活動を行うNGO。

2 2023年度CSOラーニング制度の修了式を開催しました！

2024年3月14日、損保ジャパン本社ビル43階の特別食堂にて、2023年度CSOラーニング制度の修了式を開催しました。式には財団理事、評議員、監事も参加し、全国39団体で活動した56名の修了を盛大に祝いました。

式では代表者発表として、ミニプロジェクト部門からは関東・エネルギー問題グループによる「ICUに嘆願書を出そうプロジェクト」、関東・エシカル消費グループの「ETHICAL BOOKLET作成」、宮城・エシカル消費グループの「環境商品フェア」の取組みを発表していただきました。また、個人部門では樹木・環境ネットワーク協会で活動した荻原さん、WWFジャパンで活動したキムさん、愛のまちエコ倶楽部で活動した大聖さん、グリーンシティ福岡で活動した渡邊さんの4名から、活動を通じた学びや今後の目標について発表いただきました。

ラーニング生の独創的かつ熱意のこもった取組み内容には理事、評議員、監事の皆さんからの関心も高く、「前例に囚われず、若者らしい新しい発想で、これからの時代の環境活動に挑戦してほしい」との感想が口々に述べられました。

式の最後には西澤理事長から「世界的にも環境問題が危急の問題として叫ばれている中で、皆さんが修了後も具体的なアクションを起こし、未来の日本のリーダーとして活躍することに期待したい」とのメッセージが贈られました。

また、今回は初の試みとして、CSOラーニング制度の奨学金の原資となっている「SOMPOちきゅう倶楽部社会貢献ファンド」の事務局・運営委員にもオブザーブ参加をいただきました。以下に感想をご紹介します。

ちきゅう倶楽部運営委員
SOMPOリスクマネジメント株式会社所属　下川さわさん
「気候変動による災害予測を業務で行っているため、学生さんがどんな環境問題を自分事として考えようとしているのかを伺うことができて、非常に勉強になりました。」

ちきゅう倶楽部事務局
SOMPOホールディングス株式会社所属　竹本美紀さん
「環境問題に取り組む皆さんの活動の様子を聞き、改めて素晴らしい活動と感じた。事務局として社内外に発信し、より多くの方に活動を知ってもらいたいと思う。」

CSOラーニング制度は24年目を終え、累計の修了生は1,332名となりました。2024年度も本格展開となる福岡地区を含めた5地区で、6月のキックオフ・ミーティングを皮切りに活動をスタートしています。SOMPO環境財団では、今後も「木を植える人を育てる」という理念の実現に向けて、CSOの皆さまとともに制度を通じた環境人材育成に取り組んで参ります。

3 環境分野の博士号取得を支援しています

SOMPO環境財団では「学術研究助成」として、大学院生（博士課程）の研究を支援しています。助成金を活用し博士号を取得された東北大学文学部社会学研究室の高橋知花先生にお話しを伺いました。

Q1 博士研究の内容を教えてください

環境問題の一つとして位置付けられる「過少利用」という問題についての研究を行いました。「過少利用の森林資源」を対象に、森林保全活動がなぜ展開され続けるのかを事例研究をもとに考察しました。環境保全という公益的な目的のみではなく、地域の土地問題、所有者にとっての家産の保持、活動者にとっての森林とのかかわりのアイデンティティといった、人々と森林との関わりの複数の意味から保全活動の展開を捉えました。

Q2 弊財団の助成金はどのような点でお役に立ちましたか？

主には調査を行う調査地への旅費として活用させていただきました。現地の人々の視点に立って森林のことや森林問題を見つめてみたいと思い、1ヶ月秋田県の調査地に滞在しました。その際の宿泊や交通費として助成金を活用させていただき、豊富な調査データを収集することができました。

Q3 今後のご予定、今取り組んでいる研究を教えてください

現在は博士論文をもとにした単著の出版を目指し、調査地への補足的な調査を継続しています。また、今後はそのほかの森林保全活動の調査もおこない、現代日本における森林と人々とのかかわりの可能性についてさらに探求していきたいと考えています。

森林保全活動でのお昼休憩にて

活動前のミーティングの様子

インタビューの様子

博士号取得おめでとうございます。
益々のご活躍を期待しています。

4 【連載】CSOラーニング制度派遣先インタビュー

Question

❶. ラーニング生はどのような業務をしていますか？または、どのような業務をする予定ですか？
❷. ラーニング生にはどのような期待をしていますか？
❸. CSOラーニング制度についてお考えをお聞かせください。

01 認定NPO法人 びわこ豊穣の郷 中 明子 様

A❶ イベントに参加する子どもたちの安全確保やサポート、インスタグラム投稿、ゲンジボタル飼育など多岐にわたる業務があります。その中から興味のある活動に参加することが出来ます。

A❷ 琵琶湖につながる河川や湾の水環境保全を理念に掲げる団体ですが、それを受け継ぐ次世代を育てることも大切な使命と考えています。水辺の活動を通して、子どもからお年寄りまで多くの会員と関わりながら、まず水辺を好きになり、その「好き」を多くの人に伝える方法や、好きになった環境を守るには何をすべきか、を意識して活動してほしいです。

A❸ 最初はイベントスタッフ、“労働力”としての活動です。しかしラーニング制度研修期間が終わる頃には、当法人に無くてはならない存在となっているラーニング生がたくさんいます。長期インターンシップなので、私たちの良さも課題も踏まえたうえの提案ができ、私たちもそれを受け入れられる関係の構築もできています。このような制度に感謝しています。

02 認定NPO法人 JUON NETWORK 鹿住 貴之 様

A❶ 「里山・森林ボランティア入門講座in東京」の事務局として、企画、準備、実施、報告までの一連の運営を担ってもらっています。また、2名ラーニング生がいる場合には、「間伐材・国産材製『樹恩割り箸』」の普及活動などを担当してもらいます。

A❷ 職員の少ない組織ですので、スタッフの一人として実際に仕事を進めてくれることは大変助かっています。また、大学生協が呼びかけて設立された組織として、若者の参加に力を入れているのですが、そのためには、学生の感覚がとても大切です。25年以上活動を続けている組織として、ノウハウの積み重ねや考え方などもありますが、組織外からの新しい発想に期待しています。学生のうちはいいのですが、将来的にはぜひ会員になってほしいと思っています。

A❸ 市民活動、とりわけ環境分野の団体は脆弱ですが、そこにスタッフを派遣していただいているということは、とても助かることです。組織を支えていただいています。また、市民活動についての応援団、理解者を多く産み出していることも重要ですが、実際に職員となる人材の育成につながっていることにも大きな意義があるでしょう。特に、ラーニング生の横のつながりを重視している点にも価値があると思います。歴史を考えても、環境団体、分野を支える取り組みになっていることは間違いありません。